

研究・調査報告書

報告書番号	担当
249	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Panic disorder, trait anxiety, and alcohol use in pregnant and nonpregnant women. 妊婦・非妊婦におけるパニック障害および特性不安とアルコール使用	
執筆者	
Meshberg-Cohen S, Svikis D.	
掲載誌 (番号又は発行年月日):	
Compr Psychiatry. 2007 Nov-Dec;48(6):504-10.	
キーワード	
要 旨	
<p>目的: 都市部の産婦人科クリニックでケアを受ける妊婦および非妊婦者においてパニック障害と特性不安 (trait anxiety ; 性格的に不安になりやすいか) の頻度を検証する。またこれらの女性において、アルコールの使用の違いや相関も検討する。さらに「パニック症候群や不安症特性の存在がアルコール使用に影響があるか」、「妊娠がそれらの関連を修飾するか」に関しても検討する。</p> <p>方法: ヴァージニア・コモンウェルス大学ヘルスシステムの産婦人科クリニックでケアを初めて受ける412人の妊婦と139人の非妊婦がサンプル対象者である。対象者は、感情・心理学的機能 (パニック障害、不安症)、健康関連行動 (アルコール使用)、および基礎特性に関する項目を含む質問表に回答した。</p> <p>結果: 妊婦は非妊婦に比べ、パニック障害を有する割合が少なかった。特性不安の程度に関しては妊婦・非妊婦間に差は認めなかった。基礎特性調整後、パニック障害と特性不安はより多くのアルコール使用を有意に予測し、それは妊婦・非妊婦の両者に当てはまることが分かった。相互作用の検証により、特性不安レベルの低い人は妊婦・非妊婦に共にアルコール使用の程度は同程度にとどまっていた。しかしながら、特性不安レベルの高い非妊婦は、同レベルの特性不安の妊婦に比べて有意に多くのアルコールを使用していた。</p> <p>結論: パニック障害や特性不安はアルコール使用の危険因子であることが示唆された。したがって地域の妊婦・非妊婦を対象に、これらの特性を調べる必要があることを本研究は支持している。本研究の結果はパニック、不安、アルコール使用の評価・治療に対して重要な意味を持つ。</p>	